

【2019日光フォトコンテスト総評】

日光市には歴史的な文化遺産に加え、素晴らしい自然と、そこに根ざした人々の暮らしの光景があふれています。審査をさせていただいた写真を通し、そのことをあらためて感じました。

今回の審査は写真のまとまりや、技術的な完成度もさることながら、その魅力的な日光の光景からどう広がりを感じられるか、を大切にしました。「私たちの日光の風景」は「私たちの日本の風景」「私たち人間がつくる風景」であるということまで写真は考えさせてくれます。上位に入賞した作品は、時代の変化、環境問題、人と自然の関係など大切なことが写っていました。私たち日本人にとって大切な写真でした。これは写真という表現ができる可能性でもあると思います。

これからも宝ともいべき日光の風景に誇りをもって、写真生活を楽しんでいただけることを期待しております。

【作品講評】

〔最優秀賞：令和創造〕

時代の流れに人は逆らうことができません。けれどもその流れを作るのは、時代を生きる人々の暮らしである。そのことを手作り感のある「令和」の文字が改めておしえてくれます。半被を着た女の子の姿勢がとても良いですね。時代を作るという大きなテーマが、和やかな絵で表現されていて素晴らしいです。

〔優秀賞：吹雪く戦場〕

雪の森、仕留めた獲物を引き進む男たち。その光景だけで写真としては力強い作品になりそうです。けれどもこの作品には力強さに加え、森の神秘さ、厳しさ、そして猟師の命への眼差しが写っているように思います。冷静に距離感を保ち森と人をバランスよく切り撮りました。また、男たちの表情や姿勢が、撮られていることを意識させない真剣なものです。被写体と技術が見事に合わさった素晴らしい作品です。

〔優秀賞：朝のダム湖〕

日光市ではよく知られたダムの写真とのこと。ただここまで緑に染まる光景は珍しいそうです。枝と緑の関係が逆転しているというビジュアル的にも興味深い作品ですが、それまでなかった自然現象が現れるのは、昨今の自然環境問題とのつながりを考えずにいられません。一見美しく見えるその作品が、多くの人の意識に刺さり、環境への目を大切にするきっかけになるのならば、写真の持つ役割はさらに広がるように思います。

[特選：一人静かに]

湖面に浮かぶ一隻の釣り船。画面構図の美しさだけでなく、雨粒が落ちる湖面の静けさや芽吹きの色が、季節の巡りや時の流れを感じさせてくれます。写真は一枚の中に長短様々な時間を映しこむことができるのですが、その良さが存分に感じられる作品です。だからこそ、釣り人の傾いた傘は、この方の人生を表現しているようにも感じられるのかもしれない。

[特選：中禅寺湖に沈む満月]

美しい月と湖に映る月の光。それを大胆にぼかし、心象を写したことを感じさせる作品に仕上がっています。日光は文化遺産や、豊かな自然に恵まれています。同時に神秘的な何者かの存在を感じる光景があるように思います。カメラを通し、その神秘的な力を写すことに挑まれている意欲作です。写真を見る私たちも、お作法ではなく、ただ美しいと思う写真の良さを感じていきたいです。

[特選：二匹の獅子]

良い写真には色々な基準があるように思います。この写真は決して構図が美しいわけではなければ、決定的瞬間を捉えた作品でもありません。でもその一方でその一見マイナスとも思える点が、臨場感を生んでいるように思います。「重いよね？大丈夫？」「暑いなあ」。そんな声が聞こえてくるようです。構図が決まりすぎた美しい写真には無い、広がりを感じる作品です。

[入選：結束]

決定的瞬間ではありませんが、映る人たちの表情や仕草が、次の動きを想像させてくれます。色合いの雰囲気も良いですね。

[入選：時の流れ]

美しい苔の色合い、水の流れだけではなく、上部に映る小さな洞穴が何かの存在を匂わせてくれます。

[入選：幻想の青葉]

センターに幹を配置するという一見ありきたりな構図ですが、そこから伸びる枝が美しいリズムを作ってくれています。仕上げの美しさも評価の対象です。

[入選：スキンシップ]

男性も馬もいい表情です。表現の難しいとされる黒い馬のディテールがよく出ていて、尚且つ男性の表情も立体的に見える光の捉え方が素晴らしいです。

[入選：護り続けて]

名所を写した写真は、どれだけオリジナリティーが発揮できるかが大切です。駒にかかる雪がありきたりな場所に表情を作ってくれています。

[入選：黄金色に包まれて]

木のシルエット、紅葉、ヨットの三者を絶妙なバランスで配置しました。しかし、木の横に映る人工物のシルエットが残念です。

[入選：雲海に伸びる]

風景を撮る際に人工物は邪魔な存在になりがちです。しかし、この作品は人工物を上手く使って作品にされています。雲の立体感も良いですね。

[入選：時代の足音]

馬の脚越しの子供の表情。ストーリーがあってとても良いです。いいタイミングでシャッターを押されています。しかしながら、画質と仕上げのプリントの甘さが残念です。

[入選：祭囃子]

ローアングルから、足袋の並びをユーモアを持って切り取っています。さらにもっと絞り込んで、足袋の裏から子供の表情までプリントが来ていると、さらに面白さが際立ったと思います。

[入選：赤の誘い]

目を引く作品です。人工的に作った美しい手の動き、形、色が異様に映ります。背景に木製の建物が写り込んでいるのも、ギャップになっていて良いですね。

写真家 公文健太郎